

4	春日井
---	-----

岩成台中学校	モリ エリ
	森 英里

分科会番号	7
-------	---

分科会名	美術教育
------	------

研究題目

「楽しさ」を実感しながら制作に向かい、
心の活力をもてる生徒の育成
—中学3年生「BOX⇄WORLD」の実践—



1 主題設定の理由

中学生にとって心の活力の源は大半が学校生活であり、授業を楽しく受けられるかどうかは重要な問題である。本校では、美術の授業には前向きで楽しく制作に取り組む生徒の様子が多く見られる。しかし、その楽しさは生徒にとって創造・想像する「楽しさ」となっていない実状があると感じている。

そこで、生徒の毎時間の授業が、充実した創造・想像活動となるものにするため「BOX⇄WORLD」の題材を開発した。箱を舞台にして自由に表現させ、生徒独自の世界を創り上げる。その活動を通して、生徒に自分を見つめ自分自身を探らせながら創りたいものを想像し追究する「楽しさ」を感じさせたい。そこから学び得た「楽しさ」は、生徒の自己肯定感の高まりや心の成長にもつながり、深みのあるものになると考える。それは日々の生活における心の活力となり、やがて生徒の将来において、自身の人生を豊かに創り上げていくための原動力となることも願って本主題を設定した。

2 目指す生徒像

「楽しさ」を実感しながら制作に向かい、心の活力をもてる生徒

3 研究の仮説と手だて

仮説1 生徒が自分と向き合い、自分で自由に決めることができる題材開発・題材構想をすれば、自分の表現したいものを創造し追究する楽しさを実感できるだろう。

〔手だて1ーア〕 制作方法に自由度の高い題材を設定する。

〔手だて1ーイ〕 自分の興味関心や個性を大切にし、それを制作に生かす。

仮説2 発想・構想、制作において、他者の意見や多様な材料に触れる場を設定すれば、想像し追究する楽しさを実感できるだろう。

〔手だて2ーア〕 自らの課題を解決するための、生徒同士の相談の場を設定する。

〔手だて2ーイ〕 意欲や発想の手助けとするための、多様な材料と向き合う場を設定する。

4 研究の計画と方法

(1) 手だての概要

〔手だて1ーア〕 本主題に取り組むのは3年生である。精神的にも成長したこの時期に、中学3年間の集大成として、卒業制作と位置づけできるような取組にする。「箱」を一つの「世界」と見立て、生徒独自の世界を自由に表現させたいと考えた。限定したテーマや材料、制作方法を設定しない、自由度の高い題材とすることで、自分

の内にあるイメージを自分自身で探らせながら創りたいものを追究させていく。制作の進行についても、制作に入る前に生徒自身が計画表を作成し、どのような手順で制作していくのがよいかを生徒自身に考えさせながら取り組ませる（資料1）。

【資料1 授業で使用したスライド】

作品について①



昨年同様「ボックスアート」。箱の中に立体（半立体）作品を創る。

作品について②

昨年と異なる点
箱の中に創る作品は
立体、半立体でも
平面でも良い

(例) ラッセン作の模写作箱



作品について③

昨年と異なる点
元とする作品は、教科書や資料集に載っている作品か、載っている作者の別の作品
または、
自分の好きな（創りたい作品）

(例) 漫画のひとコマを立体的（部分的）に再現。

(例) 既存のイラストにオリジナルの要素をプラス。



〔手だて1ーイ〕「マイコレクション」と称したスライド制作に取り組ませる。「自分の好きなもの」をテーマにしてスライドを作成させる。画像などを使用し、構成やレイアウトは自由に工夫させる（資料2）。自分の興味関心と向き合うことで、制作の際に何を主題にしどのような作品を創るかを決定するときに活用させる。また、自分自身の個性の尊重につなげることもねらう。

【資料2 生徒の「マイコレクション」作品】

マイコレクション
～自分の好きなもの～



形態
平面描写をメインにする。できれば一部だけ迫力を出すため立体を入れたい。

材料
立体では平面の世界観を壊さないようなものでいて自立つもの色ものを使いたい。また、できるだけ身の回りのものをできるだけ使いたい。

大事にしたいこと
全体のバランスをうまくとれて迫力あるものにした。参考にする作品に敬意を持って作るようにしたい。

〔手だて2ーア〕授業の一定時間内に生徒が自由に相談し合う場として「相談タイム」を設ける。同じ作業台に座るグループでの活動や、制作について相談したい相手との対話など、制作の進行状況に応じて設ける。また、授業開始前の準備時間にも「相談タイム」を設ける。その際、制作途中の作品を机上に並べておき、互いの作品を鑑賞できるような状態にしておく。作品について評価し合ったり自由に意見交換したりする雰囲気を作り、仲間との対話活動を通して、発想・構想を豊かに広げることがをねらう。

〔手だて2ーイ〕1時間完了の授業「材料の工夫」を設定する。多くの生徒は、まず箱内部に下描きをして彩色へ制作手順を進める。数時間費やした段階で立体制作に進む生徒が数人出てくることが考えられる。そのタイミングで実施する。課題は「与えられた材料を使って“顔”を創ろう」。身近な物や、本校の生徒が日頃授業で扱わない材料に向き合わせることで、固定観念にとらわれない、思い切った創意工夫に挑戦させる。多様な材料と向き合わせ、材料から自由に発想・構想する面白さを体験することで、表現を追究する楽しさを実感させる。そしてその体験を「BOX⇔WORLD」の題材につなげることをねらう。

「材料かえっこ」と称して、美術室の教卓上に準備した多様な材料を、常時自由に使用できる環境にする（資料3）。どのような材料を使えばよいか悩む生徒が、実際に材料を手にとって、想像をふくらませられるようにする。また、自分の用意した材料が上手く活用できなかつたり、計画していた制作内容を変更し、材料も変更することになったりするときにも「かえっこ」してもよいとする。材料を使用した生徒には、別の材料を提供してもらう。生徒が提供した材料は、また別の生徒が活用を検討できるようにして、多様な材料に触れさせ、想像し追究する楽しさを実感させる。

【資料3 教師が準備した材料】



(2) 指導計画(15 時間)

自由度の高い題材設定【手だて1ーア】		
第一次	「マイコレクション」の作成【手だて1ーイ】	2時間
第二次	制作計画を立てる	1時間
第三次	「相談タイム」【手だて2ーア】	
	制作計画決定	2時間
第四次	制作開始	
	「相談タイム」【手だて2ーア】	
	「材料の工夫」【手だて2ーイ】	完成まで
「材料かえっこ」【手だて2ーイ】		

(3) 仮説の検証方法

仮説1・2に応じて生徒を抽出し、その生徒の変容と学年全体の制作の様子から仮説を検証する。

抽出生徒A	自分の表現したい主題や表現方法を見つけられず、制作活動全般に対して楽しさを見いだせない。	▶ 仮説1の手だて1ーア、手だて1ーイで変容を検証する。
抽出生徒B	表現したいことはあるが、発想・構想することが苦手で行き詰まってしまう。	▶ 仮説2の手だて2ーア、手だて2ーイで変容を検証する。

5 研究の実際

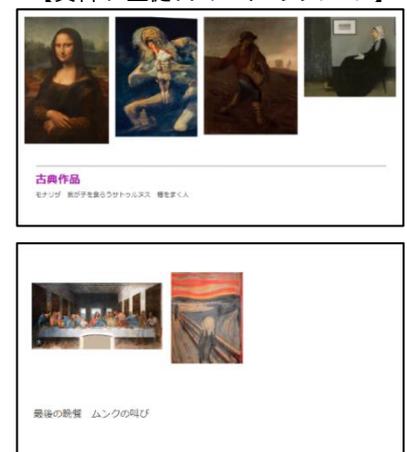
(1) 自由度の高い題材設定【手だて1ーア】

今年度の題材内容を生徒に伝えたところ、反応がよいと感じた。「こういう作品を素にしてもいいですか」と許容範囲を確認する質問が出たが、自由度が高いことを理解すると、生徒は「これにしよう」「これを創りたい」と意欲を高めていた。立体あるいは半立体か、平面かの選択についても「自分は立体が苦手だから平面で創りたい」「創りたいイメージを考えると、立体で創りたい」など、生徒が自身の力量や作品のイメージで構想し始めているようだった。生徒Aは「自分はどんな作品にしよう」と周囲の生徒と会話する様子が見られた。授業に対して取り組む意思が見えるということは、1・2年時と比較して、前向きな姿勢をもっていることの現れであると考えられる。

(2) 「マイコレクション」の作成【手だて1ーイ】

第1次では「マイコレクション」の作成に取り組ませた。生徒は書体にこだわったり、レイアウトやデザインなどを自由に変えたりして個々に創意工夫していた。教科書や資料集に掲載されているダ・ヴィンチ、ゴッホ、葛飾北斎などを、好きな作品として挙げる生徒は多かった。バンクシーやラッセンなどの現代の作品や、漫画、アニメーション、ゲームなどの世界を並べる生徒も多くいた。また「自然の風景が好き」「透明な、キラキラしたものが好き」といったように自分の嗜好を明らかにする生徒もいた。さらに「受検合格の夢を叶える、という思いを込めたい」というコメントも見られた。生徒Aの「マイコレクション」は、自分の好きな作品を数点スライドに載せて作成されていた(資料4)。1・2年時では、授業の課題の提出率は高くなかったため、今回の取組には前向きさを感じた。「A君は、ダ・ヴィンチが好きなんだね」という声掛けにも、素直に「そうなんです」と答えた。「これらの作品を素にするのかな、どうしようかな?」と問いかけると「これらの作品は、制作とはまた別かな…」と、自分の表現を探ろうとしていることが感じられた。

【資料4 生徒Aのマイコレクション】

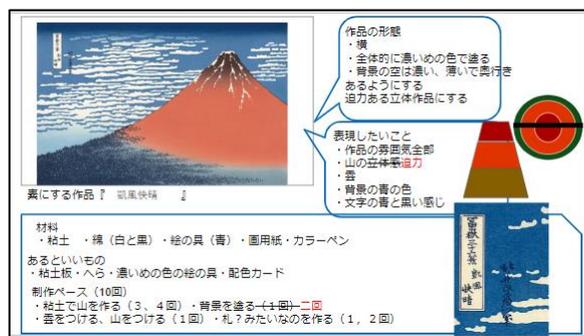


(3)「相談タイム」〔手だて2ーア〕

実際の制作に向けて「制作計画」を立てさせた(資料5)。「マイコレクション」の作成を受けて、作品の主題と自分の制作工程を決定させた。授業の予定回数と照らし合わせて、どのような工程で制作するか、何から制作するか、などを計画するものである。この段階で、生徒が互いに助言し合える場「相談タイム」を設けた。15分間で1人以上の生徒から助言をもらい、自分も助言や意見を伝えることをルールにした。どのような作品にしようか悩む生徒に対して、仲間からの助言は効果的だった。制作計画が未完成で、創りたいものが決定せず焦りを感じていたある生徒は、仲間から「自分の好きなものでいいんだよ」「ここを立体にして、こうしてみたら…」と助言をもらったことで、作品を決定させることができた。

授業が進み、生徒Bは順調に制作を進めていた。しかし急に手が止まってしまった。メインのキャラクターがイメージ通りに描けないとのことであった。そこで、授業の始めに「相談タイム」をとり、仲間の制作から発想・構想のヒントをもらう時間を与えた。生徒Bは、よいと感じた仲間の作品を写真に撮ったり、立体制作に取り組む仲間と材料の検討をしたりしてアイデアを模索した。その結果、メインのキャラクターの色を変更することに決め、再び制作に向かい始めた(資料6)。仲間の制作方法を真似るのではなく、自分の中の仕上げたいイメージを自分でつかむことができたようである。

【資料5 制作計画表の一例】



【資料6 生徒Bの制作風景】



(4)「材料の工夫」〔手だて2ーイ〕

制作計画が完成した生徒から随時、実際の制作に進ませた。箱内部の下描きや彩色から始め、立体制作を進める生徒もいた。この段階で「材料の工夫」の1時間の授業を実施した。「与えられた材料で、テーマに沿った作品を創る」ことを発表し、テーマは「顔」とした(写真1)。立体あるいは半立体、平面のいずれでも可とし、各作業台に生徒が使用する共通の材料として新聞紙、アルミホイルを配付した。また、接着材料としてセロハンテープも配付した。そしてより発想・構想を促すため、教師が用意した毛糸、綿、緩衝材、プラスチック容器などを教室前方の教卓上に並べた。検討時間5分、相談タイム5分、制作時間15分と設定した。生徒は、開始の合図とともに材料を選びながら仲間と発想し合ったり、制作しながら仲間同士で材料を与え合ったりするなど、積極的な姿が見られた。生徒の振り返りには「紙



【写真1 生徒が制作した顔】

スプーンを使ったら上手くいきそう、という仲間のアドバイスを活かしました」「新聞紙を折り曲げたり丸めたりちぎったりと、いろんな形にして使いました」という記述があった。仲間との意見交換や多様な材料によって豊かに発想・構想し、自分が表現したいものを追究していることが、生徒の感想から分かった（資料7）。

生徒 B は、教師が準備した材料を手「これを使ってみたいな」など、仲間と積極的に対話していた。人物の髪に毛糸を使うことに決めていたが、綿も使用することにしたようであった。制作を始めると集中して取り組んでいた。完成した作品は満足いくものになったようだった（資料8.資料9）。

【資料7 生徒の振り返り】

考えることが難しかったが、新しい気持ちになった。また、材料を見ているとどれもここに使いそうだと思うことにすごく驚いた。作るのも正解がないと思うから自分なりに表現するように努力して作るのが楽しかった。

私は、新聞紙の文字の量や難しい単語の多さ、新聞紙が時間や社会を表すものということから着想を得て、毎日の社会に追いつけていない大人を表現しようと考えました。まず、新聞紙は目に入った見出しの文字や記事の一部分を不規則な形に破って、それをまとめて頭に見えるようにしました。そして、アルミホイルを一度クシャクシャになるくらいしっかり丸めて、綺麗じゃない＝新しくない＝古い、というイメージで顔の肌の部分を作りました。髪の毛の新聞紙のグレーと肌のアルミホイルの銀の感じが、時間が動いていないような、廃れたような印象を表現することができました。

【資料8 生徒 B の授業の様子】

材料を探しに行こう！



これを使おう！



集中して制作



【資料9 生徒Bの振り返り】

授業を受ける前はなんの材料がもらえるかが全然わからなくてドキドキしていて、顔というお題で何を作っていいか全然分からなかったけど、作り始めて材料をいろいろ集めてみるといろんなアイデアが思いついて楽しかったです。友達からもらったアドバイスでじぶんの作品がどんどん完成していった面白かったです。いろんな人の作品をみると全員違って、みんな個性が出て面白く思いました。でも、最初は全然アイデアが思いつかなかったので難しかったけどすごく楽しかったです。また、やりたいと思いました。

(5) 「材料かえっこ」【手だて2-1】

教師が用意した材料を使用できる代わりに、使用した生徒は自分で別の材料を持ってきて提供するルール「材料かえっこ」を設定した。生徒が提供した材料はその場で紹介し、また別の生徒が使用したり発想を膨らませたりできるようにした。

ある生徒が、箱からせり出した状態にしたいと相談してきた。そこで、教師が用意した材料から端材を提供した。その次の週に、提供した端材の代わりとしてカプセルトイの空容器を持ってきてくれた。それを見た別の生徒が、紙粘土制作の芯材にしたいと申し出てきた。丸みのあるキャラクターのフォルムに丁度よいとひらめいたようだった（資料10）。

生徒 B は、当初の制作計画から使用する材料を変更することになった。箱の内側を平面表現にして、一部分を紙粘土で立体にする予定だった。しかし、教師が準備した材料から、綿の残りを発見した。生徒 B は「空に雲をつけることにしたので、綿をもらってもいいですか」と申し出てきた。授業後に作品を確認すると、綿で作った雲が追加されていた。制作を進めながら発想・構想を広げている様子が分かった。

【資料10 「材料かえっこ」の一例】

カプセルトイの空容器



紙粘土制作の芯材に活用



6 研究の成果

1学期末に実施したアンケートの結果、多くの生徒は「1・2年の時より楽しく授業を受けた」と回答していた。自由な作品を作れることに楽しさややりがいを感じていること、自ら発想・構想することにやりがいを感じたことや仲間とのやりとりで喜びを感じたことなどが感想に表されていた（資料11）。

生徒Aはアンケートの質問「1学期の美術の授業はどうでしたか」に対して「とても楽しかった」と回答していた。「1・2年の時よりもとても楽しい」とも回答し、やりがいを感じていることが分かった。

生徒Aは、同じ作業台の仲間から「奈良が好きということなら、大仏をそのまま作ればいいのに」という助言を受け「そうか！ そうだなあ！」と嬉しそうに声を出した。「大仏を箱の中に創る、というのでもいいですか」と、教師に質問した。「A君が創りたい！と思うものならそれでいいのですよ」と答えると、早速制作計画を立て始めた。制作中はタブレット端末を使って自分で大仏の画像などを検索していた（写真2）。大仏自体は平面にし、手を立体的に創ることに決めた。生徒Aとの対話から、手は本物らしく目立つように制作したい、という思いをもっていることが明らかになった。紙粘土で制作することにしたが、なかなか上手くいかず、芯材を用いて制作することにした。「こうしたい」という思いをもって、創り方にも自発的に創意工夫し熱心に取り組む姿が見られたことから、仮説1が有効であったと考えられる。

生徒Bは、アンケートに対して「1学期の授業はとても楽しかった」「とてもやりがいがあった」と回答していた。

生徒Bは、授業開始前の準備時間や制作中の相談タイムなどで、仲間の制作や助言から発想を得ながら制作を進めていた。作品に対して「爽やかな感じにしたい」「現実でない感じにしたい」と自分の仕上げたいイメージを構想し追究する姿が見られ、仮説2が有効であったと考えられる（資料12）。

全体として、生徒は自分の表現したいものを創造・想像し追究する「楽しさ」を実感したと考える。本研究を通して学び得たものが、生徒の心の活力となり、将来の多様な活動に生かされることを願う。

7 今後の課題

「材料の工夫」の授業後の感想から、「自分の思う通りに作品を創る技術があれば」という記述があった。制作中の生徒からも、自分の技能が伴わないことで発生する悩みや「イメージしたように塗れない」などの声が聞こえる。「楽しさ」を実感させるには、思い通りに作品を作るための美術的な技能も必要となる。今後は生徒の技能向上のための手だてを、どのように授業に取り入れていくか検討していきたい。

【資料11 アンケート回答より】

最初は楽しくないと思ってたけど12年生の時よりも自由な作品を作ることが多くて楽しかったと思えました。またそれを完成させたときのやりがいをとても感じました。12年生のときはつまらなかったけど3年になってからは楽しく感じます。

1、2年生の時よりも自分の頭で考えて作品を作る、行動するということが増えてきて自由性が広がったなど感じて自分の好きな作りたいものを作ろうとすることができた。

中学一年のときは図工という意識が高く美術の意識がなかったため自分の中では絵を描くだけだと思っていました。しかし、美術の授業を重ねることに自分の美術の個性を感じることもみんなの作品を見ることによって相手の美術の個性を知ることができとても楽しいと感じるとともに美術のやりがいを感じることもできました。

作品を作るときに、いまいちだったところを自分で考えて直したり友達にアドバイスを貰って直したりして上手にできるととてもやりがいを感じました。また、自分でこれはどうかなど考えたアイデアが他の人に良いと思われることもとても嬉しくなりました。



【写真2 生徒Aの作品と制作風景】

【資料12 生徒Bの制作工程】

④色塗り続き

今回も色塗りをしました。空の色を塗り直しました。でも、あんまり好きな色じゃないのだから塗り直したいです。あとは雲をわたで作り直しました。雲はふわふわってイメージがあるので綿で作りました。空はもっと爽やかな感じにしたいです。なので、白を混ぜて全体的にうすくしたいと思いました。

⑤6月26日色塗り続き

今回は、空の色を塗り直しました。あとは、花をカラフルに塗り直しました。空を塗るときに色が濃くて空がはっきりすぎて嫌だったので少し薄くしました。花をカラフルにした理由は、現実感をなくしたいからカラフルにしました。もっと現実がない感じにしたいです。